

## 第63期第3回 日本物理学会男女共同参画推進委員会 議事録（案）

日時：2008年4月5日（土）13時より17時

場所：日本物理学会会議室

出席者：田島節子、前田京剛、家泰弘、中島美帆、森初果、米永一郎、松尾由賀利  
鳥養映子（ネットコメンテータ）、坂東昌子（ネットコメンテータ）

欠席者：有光直子、肥山詠美子、池内了、野崎光昭、平田光司

### I 報告事項

#### （1）シンポジウム担当サブグループ報告（米永）：配布資料2

3月24日、近畿大学における日本物理学会年次大会の際に企画した日本数学会との合同懇談会の様子について、米永委員より議事録（資料2）をもとに、以下の通り報告があった。

日本数学会から9名、日本物理学会から10名の参加者があった。両学会の男女共同参画推進委員会の歩みを報告しあった後、それぞれが抱える問題について意見交換を行った。1学会では実行できないことも複数学会が協力することで実現できることもあるので、今後も協力体制を維持することなどを確認しあった。

#### （2）広報サブグループ報告（森）：配布資料3

森委員より次回の委員会だよりの原稿（案）が資料3として配布され、意見交換が行われた。各大学や研究機関で行われているポジティブアクションについて、まとめたものであり、トピックスとしては適当であるとの意見が多かった。ただし、この問題には非常に敏感に反応する人達が大勢いることが予想されるため、言葉使いに注意を要するとのコメントがあった。本原稿に、JSTなどで行われているポジティブアクションの実例を加え、文言などを精査した後、投稿することとなった。

#### （3）学協会連絡会担当サブグループ報告（前田）：配布資料6

前田委員より学協会連絡会運営委員会の報告があった。第6期委員長は、地球惑星科学連合の中村正人氏。昨期が行ったアンケート結果をとりまとめ、提言を行う予定。

アンケートの生データ（日本物理学会員分）はCDで前田委員が受け取っている。平田委員に分析を依頼する予定。

#### （4）女子中高校生啓発担当サブグループ報告

森委員より、今年度の夏の学校の日程について報告があった。実験については、昨年度ポスター展示を手伝ってくれたKEKの樋口氏らに依頼する予定。ポスター展示は、前田委員担当。

田島委員長より3月15日16日に阪大で行われた関西ジュニア科学塾について、報告があった。80名募集に対して160名の応募があり、盛況のうちに開催されたことが報告された。今年度については、奈良女子大学が受託機関となって、応募中とのこと。

## II. 審議事項

審議に先立ち、前回議事録（資料1）の承認が行われた。

(1) 学協会連絡会アンケート結果の取り扱いについて（配布資料4、7）

- (i)物理学会員分についての分析とその結果の報告書は、本委員会としてとりまとめる予定。
- (ii)政府のさまざまな施策の中では、数値目標についての認知度が最も低く、またその評価も低かった。若手研究者からの反発が最も大きいことから、女性研究者の進出が、男性研究者の職を奪うような形で進まないような配慮が必要であるという意見が出た。（資料4）
- (iii)坂東氏から、物理学会が独自に行ったポスドク問題についてのアンケート結果と、学協会連絡会が行ったアンケートのうちポスドクに関係した部分とを一緒に議論する価値があるので、後者について生データを借りたい旨、学協会連絡会へ申し入れる予定という報告があった。また、ポスドク問題アンケートの中で研究テーマの選択と抑うつ度との関係を示す興味深い結果について報告があった。（資料7）
- (iv)学協会連絡会がとりまとめた報告書のデータの中で、このままでは公にできないと思われるものがある、との報告があった。ポスドクの契約上の勤務時間数と実際の職場滞在時間との関係を示した図である。男性に関しては、週10時間以下から40時間以上まで、契約時間数に関係なく、すべての層で週60時間程度仕事をしている実態が明らかになった。これをそのまま公にすると、ポスドクを雇用している者の責任問題に発展し、なぜそのような状態になったかという根本的な議論に至らない危険性がある。そこで、物理学会としては、横軸を「契約時間数」ではなく、「給与額」でプロットする方法を提案することとした。それによって、低賃金・長時間勤務のポスドクの実態を明らかにすると同時に、いかなる待遇でも研究職につきたいという若者の意欲や、「研究者特有の価値観」についても知らせることができる。

一方同じ調査で、女性については、やはり契約時間数と実際の仕事時間数には3-4倍の差があるものの、男性のように一律60時間ではなく、短時間契約の者はそれなりに仕事時間も短くなっている。女性の場合、短時間契約を選択している理由が、育児などで実際仕事時間を長くとれないことにあるという実態が明らかになったと言える。

(2) IUPAP WIP国際会議（ソウル）への参加について（配布資料5）

資料5として **first circular** が配布された。日本物理学会からの参加者は、今のところ、田島氏（学術会議予算）、肥山氏（個人の科学研究費）、鳥養氏（個人の科学研究費）が決定している。物理学会の予算では、前田氏が参加することが決まった。残り1名については、今後検討することとなった。

応用物理学会からは、遠山氏とのこと。その他、東北大学から学生が2名参加予定。

(3) 今後の委員会活動について

(i) 広報：委員会HPを物理学会の表に見えるようにできないか。

“委員会だより”の次回の記事が家委員に依頼された。

(ii) 支部活動との連携：支部活動で高校の先生との連携をやっている場合、そこへ女性講師を送り込めないか。

(iii) 物理教育委員会或いは物理教育学会との合同シンポジウムを行い、高校教員への啓発活動を行う。(ネットコメンテータの田口氏に問い合わせしてみる。)

(4) 次回委員会日程

次回の委員会は、新旧委員交代の委員会とし、8月30日(土)に行うこととなった。

以上